平成27年度

宮城県遺跡調査成果発表会

発表要旨

会場：東北歴史博物館
日時：平成27年12月12日（土）
　　10時00分～16時15分
主催：宮城県考古学会
共催：宮城県教育委員会
　　多賀城市教育委員会
　　宮城県史跡整備市町村協議会

平成２７年度 宮城県遺跡調査成果発表会

平成２７年１２月１２日（土）　東北歴史博物館

【発　　表】

1．10:10～10:35	仙台市	野川遺跡	東北大学大学院文学研究科考古学研究室…… 1
2．10:35～11:00	仙台市	川前遺跡ほか	仙台市教育委員会…… 7
3．11:00～11:35	山元町	合戦原遺跡	山元町教育委員会……13
4．11:35～12:00	多賀城市	多賀城跡	宮城県多賀城跡調査研究所……19
昼　食・休　憩			（５０分）
5．12:50～13:15	仙台市	西台畑遺跡	仙台市教育委員会……25
6．13:15～13:40	東松島市	江ノ浜貝塚	東松島市教育委員会……31
7．13:40～14:05	多賀城市	八幡沖遺跡	多賀城市埋蔵文化財調査センター……35
8．14:05～14:30	松島町	瑞巌寺境内遺跡	松島町教育委員会……41
休　憩			（２０分）
9．14:50～15:15	仙台市	若林城跡	仙台市教育委員会……47
10．15:15～15:40	仙台市	仙台城跡二の丸北方武家屋敷地区第１４地点	東北大学埋蔵文化財調査室……53
11．15:40～16:05	宮城県	宮城県の震災復興事業に伴う遺跡調査について	宮城県教育委員会……59

【資　料　発　表】

1．	石巻市	羽黒下遺跡	石巻市教育委員会……65
2．	女川町	崎山遺跡	女川町教育委員会……69
3．	大崎市	団子山西遺跡	宮城県教育委員会……73
4．	山元町	犬塚遺跡	山元町教育委員会……75
5．	栗原市	大天馬遺跡ほか	宮城県教育委員会……79
6．	気仙沼市	緑館遺跡	気仙沼市教育委員会……83
7．	岩沼市	熊野遺跡	岩沼市教育委員会……85
8．	山元町	北経塚遺跡	山元町教育委員会……89

［考古学で使われる用語のいろいろ］ ……93

※本資料は、発表会時点での遺跡調査成果について概要をとりまとめたものであり、調査の最終報告となるものではありません。

仙台城跡二の丸北方武家屋敷地区第 14 地点の調査概要

東北大学埋蔵文化財調査室

1．調査要項

遺跡名　：仙台城跡二の丸北方武家屋敷地区
　　第 14 地点
所在地　：仙台市青葉区川内 41
　　東北大学川内 1 団地構内
調査原因：地下鉄東西線川内駅前整備
調査主体：国立大学法人東北大学
調査担当：東北大学埋蔵文化財調査室
調査期間：平成 23 年 9 月 1 日～平成 24 年
　　5 月 31 日（中断含む）
　　平成 27 年 3 月 1 日～7 月 6 日
調査面積：954 ㎡

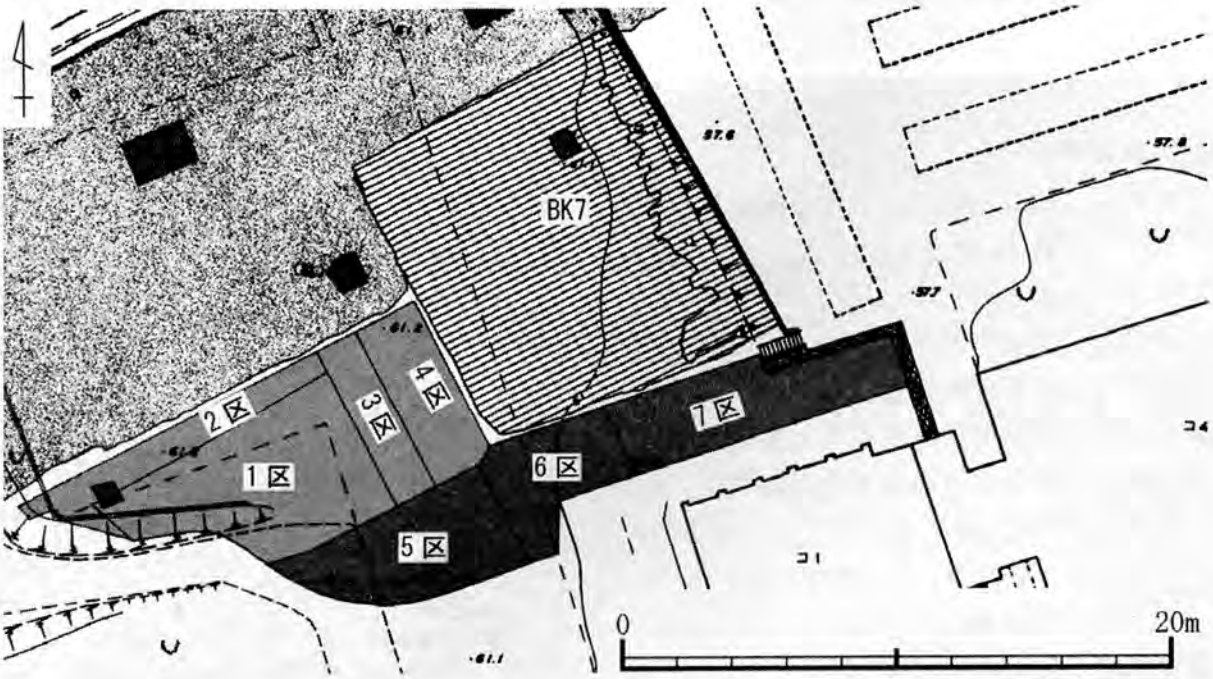
第 1 図　遺跡位置図

2．調査の経緯と位置

今回の発掘調査は、仙台市高速鉄道（地下鉄）東西線川内駅の駅前広場を整備する工事に伴うものです。地下鉄東西線は、川内北キャンパスの北端に沿って路線が計画されており、平成 27（2015）年度の開業を目指して建設工事が進められてきました。この地下鉄東西線では、川内駅がマルチメディア総合研究棟（平成 13（2001）年度調査：仙台城跡二の丸北方武家屋敷地区第 7 地点：BK 7）の西側に予定されていました。そのため、東北大学では、川内駅の出入り口として駅前広場の整備を行うこととなり、それに伴う発掘調査が必要となりました（第 1 図）。

調査予定範囲には、地下鉄東西線の工事区域を横断する歩行者や自転車用の通路があり、川内北キャンパス各方向方面へと通じる主要な通路でした。そのため、これらの通路を確保しながら、発掘調査を実施する必要がありました。そこで、調査区を 1 ～ 7 区に分け、通路を移設して確保しながら、順次調査を実施しました（第 2 図）。

平成 23（2011）年 9 月から調査を開始し、12 月末までに 1 ・ 2 区の調査を終了させました。平成 24（2012）年 3 月には、3 区の調査を行いました。これで、調査が終了した面積は 1 ～ 3 区の 412.4 ㎡となりました。平成 24（2012）年度は 4 ・ 5 月に 4 区（96.1 ㎡）の調査を行いましたが、大学構内における別地点の発掘調査を実施する必要があったため、本地点の調査は一旦中断することとなりました。この時点での調査終了面積は、1 ～ 4 区の 508.5 ㎡です。平成 27（2015）年 3 月からは、残りの 5 ～ 7 区（445.5 ㎡）を同時に調査しました。7 月 6 日までに調査を完了させました。今回の発掘調査を行った面積は、合計 954 ㎡です。



第２図　仙台城跡北方武家屋敷地区第 14 地点(BK14)調査区

３．基本層序と堆積状況（第３図）

１層　日本陸軍第二師団期から現在に至るまで整地層・表土層です。この層の掘削は重機で行いました。

２層　基本的には灰黄褐色から黄褐色を呈する目のやや細かいシルト質の土です。主要な遺構が検出された面になります。調査時には、その特徴から大きく 2a 層～2d 層に細分しました。

2a 層　場所によって炭化物や小石が混ざり、土の色が脱色して灰色となるような地点もありました。地点によってかなり特徴が異なるため、調査場所によってはさらに細分をしています。遺構が多少認められました。

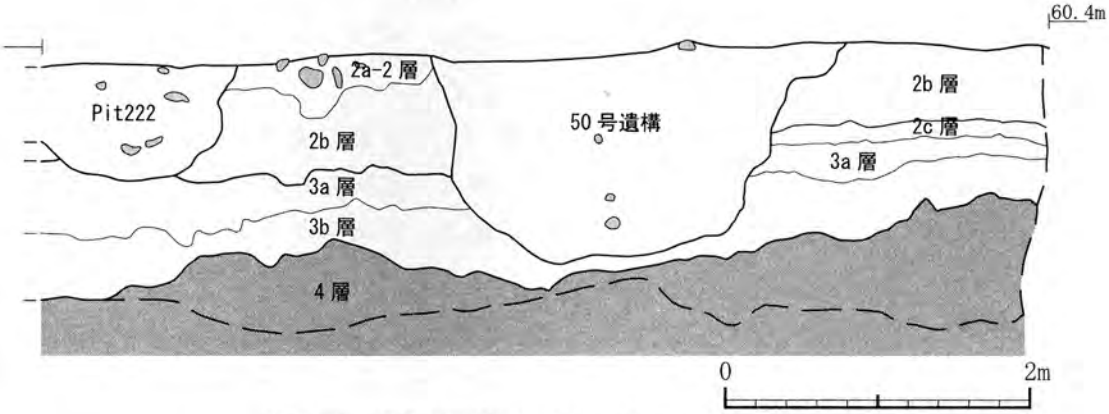
2b 層　灰黄褐色のシルト質の土であり、混ざりの非常に少ない均質な土です。主要な遺構の確認面です。

2c 層・2d 層　当初は、部分的に灰褐色等を呈していたため、２層の範疇に含めていました。しかし、調査が進むに連れて、その土の特徴が 3a 層のものと類似しており、3a 層の上部が変色したものと捉え直しました。

３層　土の特徴から 3a 層と 3b 層に細分しました。この土の特徴は、基本的に茶褐色を呈し、黄色の軽石を多く含くむ、非常に緻密な土です。3b 層は、次の４層への漸移層として捉えました。今回の調査では、遺物・遺構は確認できませんでした。

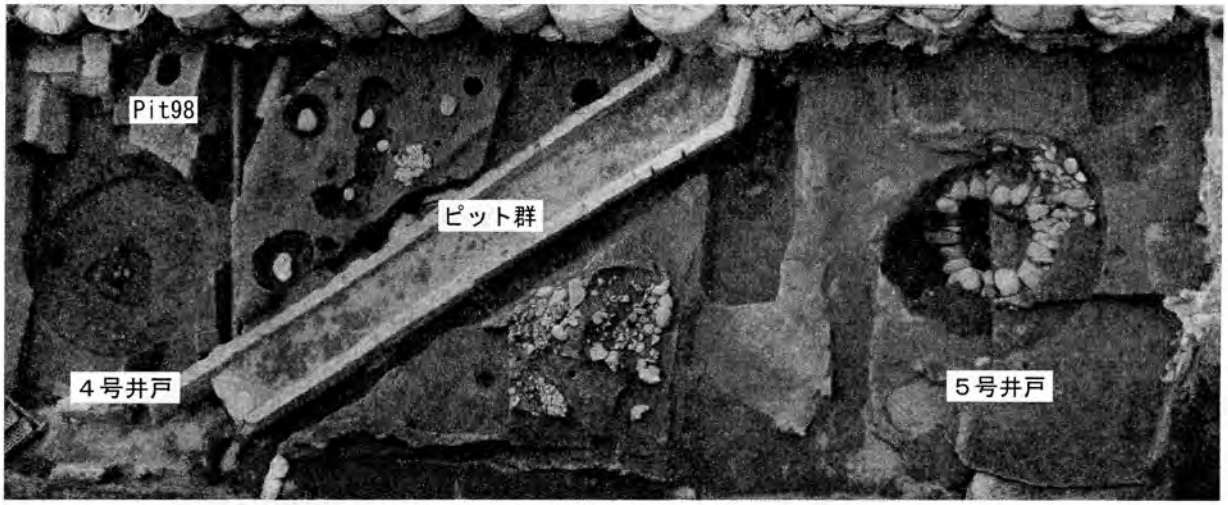
４層　非常にキメの細かい粘土層です。部分的に砂や小さな円礫を層状に含みます。遺物等は確認できない地山として捉えました。これより以下も、粘土と砂が交互に堆積したもので、水の働きにより堆積した土層として考えました。

今回の調査区の西端では、１層直下から 3a 層あるいは４層が確認され、遺物や遺構が



第３図　基本的な層堆積状況（６区AT12区南壁断面図）

第４図　１・２区遺構分布状況（上が北）



第５図　４区遺構分布状況（右が北）

発見される２層は既に削平されていました（第４・８図）。そのため、西端では深く掘り込まれた遺構（1号遺構:井戸跡など）のみが検出されました。それ以外の２層が堆積している場所では、遺構等も多く確認することができました。

なお、調査区の全面にわたって第二師団・米軍・大学による工事等で、江戸時代の面が破壊された痕跡（撹乱）が認められます。その大体は、建物の基礎や排水管などによるものですが、東端部では防空壕と考えられる痕跡が確認できました（第９図）。

４．調査の概要

今回の検出された遺構には、建物の柱穴と考えられるピット約 280 基、井戸跡約５基、溝跡 10 条、池跡４基以上等を確認することができました。

数多く見つかったピットには、柱を載せるために底部に石が置かれたもの（第７図）や、等間隔で並ぶなどの特徴があり、明瞭に柱列として確認できるもの（第４図等）もあります。これらの遺構は、塀や建物を支える柱を据えた際の痕跡として考えられます。井戸跡については、素堀のもののほかに、川原石や木製桶を用いて構築されたものも確認できました（第６図）。溝跡は、用途が不明な浅い溝のほかに、深く掘り下げられしっかりとした形の溝が確認できました(第９図)。このような溝は、敷地を区画する溝とも考えられます。

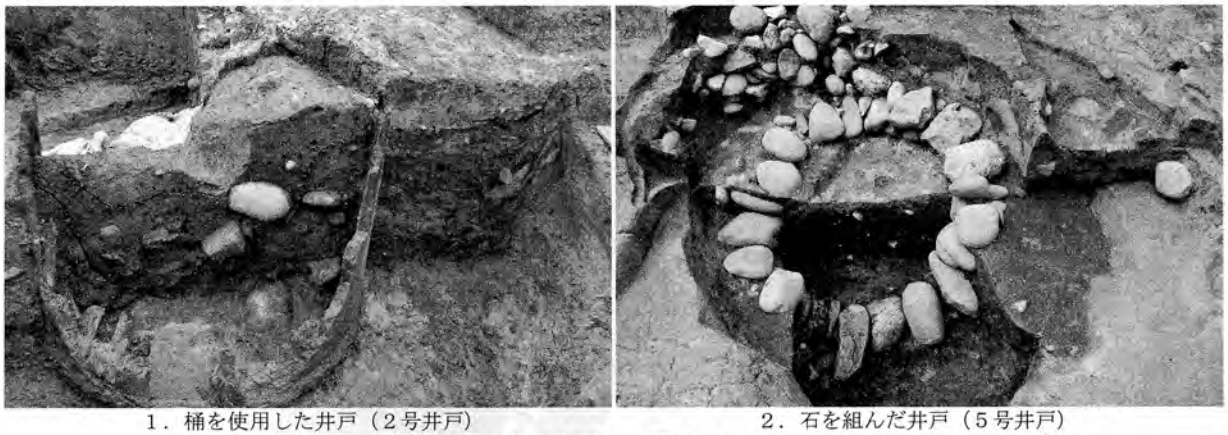
池跡は、調査区において最も東側の７区において確認できました（第９図）。西側の池跡は、最も古い段階で南北２基（22 号遺構、24 号遺構）が連結するような構造でした。それらが自然に埋没した後に、新たな池跡（17 号遺構）を造りなおしたようです

東側の池跡（19 号遺構）は、その池の内部で区画を構築し、小型の池を連結した形態となるものでした（第９・10 図）。この区画の一部では、地山を含む粘土で盛土を形成した後に、その上に筵（むしろ）様の敷物を引いていることが判明しました（第 10 図）。おそらく、さらにその上に盛土をして成形し、盛土が崩れないようにしたものと推定しています。そして、この池跡は使われなくなった後に、全体的に埋没したようです。

この池跡が埋まる際の土（埋土）には、有機物が多く確認できました（第 11 図）。最も上の層である１層は、出土した陶磁器や土の特徴などから比較的新しい時期の堆積層と考えています。その下の２層は、有機物を多量に含む層で、自然の木の枝等だけではなく、人間が作成した下駄等の遺物も確認できました。３層は水が静かに堆積したと推定される泥土です。４層は、３層とほぼ同様の特徴を有していますが、黄色粘土を多少含み、壁際が崩れた際の土も含んでいるようです。５層は地山である黄色の粘土を含む層で、池跡を構築した際あるいは構築後にあまり時間を経ないうちに堆積した土と考えています。

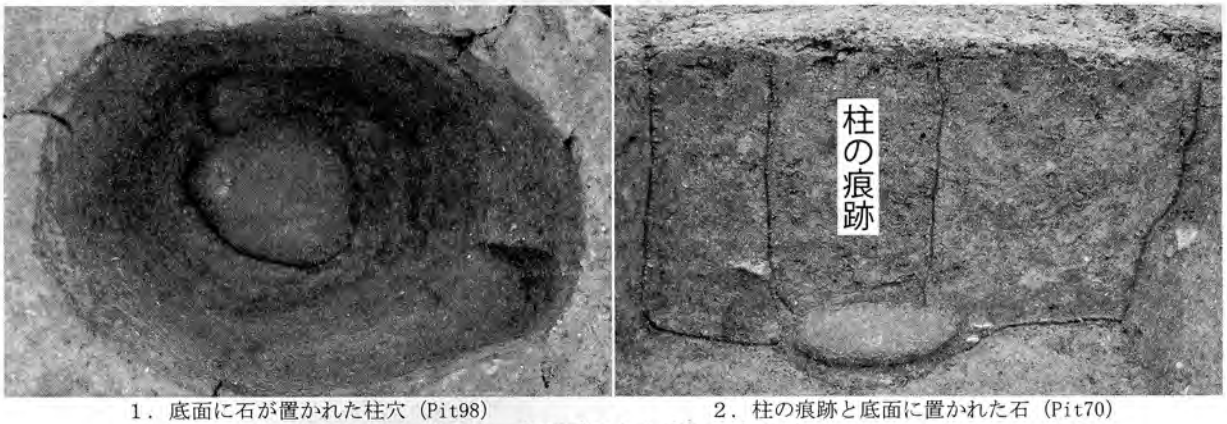
これらの池跡埋土の２～５層については、全ての土を回収し、水で土を洗うことにより、掘削時には発見することが難しい細かな遺物の回収に努めました。現在、その分別作業を行っていますが、微細な陶磁器、魚の骨や植物の種実類などの多くの遺物を回収しています（第 12 図）。

今回の調査区西側では、建物や塀跡等の柱穴と井戸が多く確認できました。一方、調査区東側では、柱穴等は少なく、深い溝跡や池跡が発見されています。このように、その土地の使われ方が明瞭に異なっていることが把握できました。今後は、今回の発掘調査資料の整理を進めるとともに、絵図等との比較検討も合わせ、当時の具体的な様相について明らかにしたいと考えています。



1．桶を使用した井戸（２号井戸）　　2．石を組んだ井戸（５号井戸）

第６図　様々な材質で構築された井戸

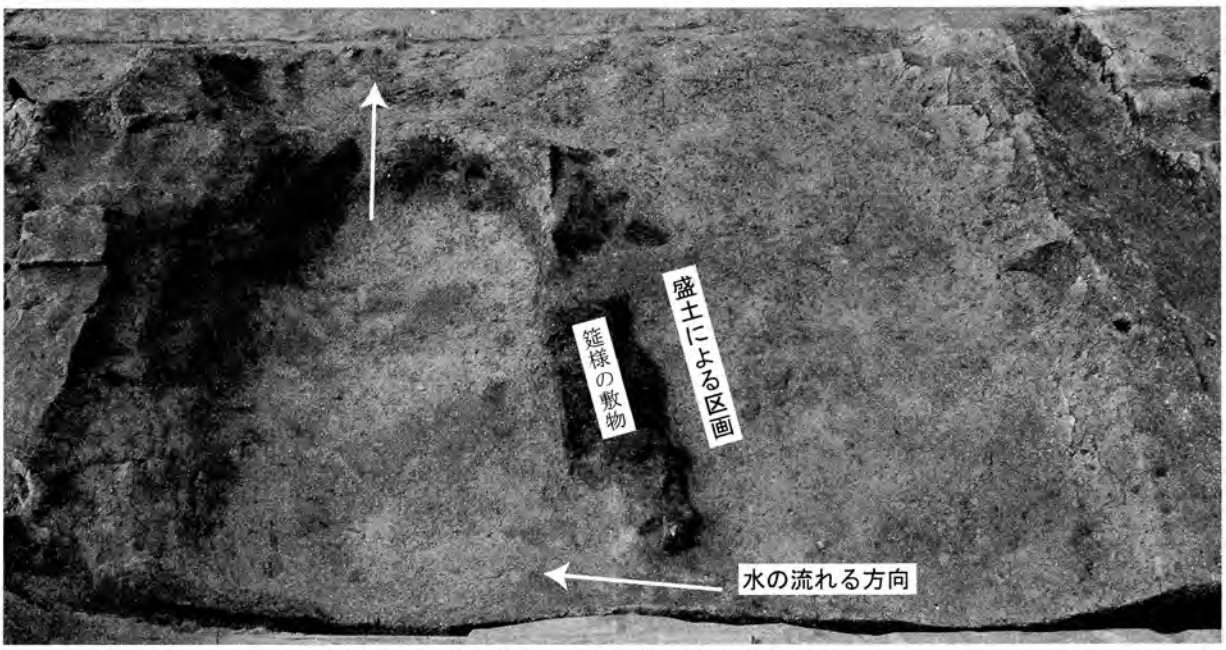


1．底面に石が置かれた柱穴（Pit98）　　2．柱の痕跡と底面に置かれた石（Pit70）

第７図　柱を建てたと考えられる穴

第８図　６区西・７区遺構分布状況（下が北）

第９図　７区遺構分布状況（下が北）



第10図　東側の池跡（19号遺構）完掘状況（下が北）

第11図　池跡東側（19号遺構）の断面写真（南から）

1．骨（24号遺構埋土７層:3mmメッシュ）

2．種・殻類（24号遺構埋土３層:3mmメッシュ）

第12図　池跡東側（24号遺構）から発見された骨と種・殻類